



きじむんの どう〜ちゅいむにい〜

あなたの知らない琉球大学の秘密編

第5回 琉球大学千原キャンパスの自然 (後編)



博物館 (風樹館)

イーソグワチデービル! キジムンヤイビーン! (あけましておめでとうございます! きじむんでーす!)

第1回の「琉球大学千原キャンパスの自然(前編)」に続いて今回は後編をお届けするね。

今回も琉球大学千原キャンパスの自然について、琉球大学博物館(風樹館)の佐々木健志先生に教えてもらったよ。



リュウキュウメジロ (琉大)

琉球大学の千原池にはたくさんの鳥がいるよね。冬にはカモもやってくるんだって。

初夏に琉大にもやってくるリュウキュウアカショウビンは、10月ごろには沖縄から去っていく夏鳥。佐々木先生によれば、リュウキュウアカショウビンは、宮古島では家に来ると不吉な鳥といわれているんだって。鳥の伝説や伝承も沖縄にはいくつもあるから、図書館で調べてみてね。

琉大内ではホトトギス・メジロ・シジュウカラもみられるんだって。理学部では学生がバードウォッチングをしているよ。



ヤマモモの実

風樹館の庭にあるビオトープには、トーンナジャー(タウナギ)がいるよ。

琉球の古文書『御膳本草』(渡嘉敷通寛著、19世紀成立)には「気味甘、大温毒なし、中を補ひ血を益し」と記載されていて、食用及び造血剤として記されているよ。ちなみに犬の肉や犬の血と一緒にこれを食べるのは禁忌とも記されているよ。当時の食文化がわかるね。



オキナワウラジロガシ 堅果

佐々木先生は、「千原キャンパスは酸性土壌の場所もあり、沖縄本島北部と南部の植物が同時にみられるスポットでもあります。特徴的なのは日本最大の大きさのドングリが実るオキナワウラジロガシが生えていること。また沖縄本島北部の植物であるイジュやヤマモモが自生していることです。」と教えてくれたよ。

オキナワウラジロガシは、県内各地の遺跡からも当時のままの姿で発掘されているよ。縄文人も食べた日本一大きなドングリ、味が気になるどころだけれど、ドングリのなかでは特においしいわけではないんだって。

琉球王国のころは、首里城を建築するときには、沖縄本島北部の山から巨木になったオキナワウラジロガシを切り倒して首里城の柱にするために人力で運んできたりもしていたよ。

人間の暮らしに密接に関わる動植物は、楽しい話題がたくさんだね。



シジュウカラ (沖縄島)



イジュ

ぜひ、琉球大学博物館で、沖縄の自然や文化に触れてみてね。

次回の「きじむんのどう〜ちゅいむにい〜」もどうぞお楽しみに。(AS)



協力: 琉球大学博物館(風樹館) (写真提供)
佐々木健志(琉球大学博物館 助教)

琉球大学附属図書館 保存公開係 令和2年1月6日発行